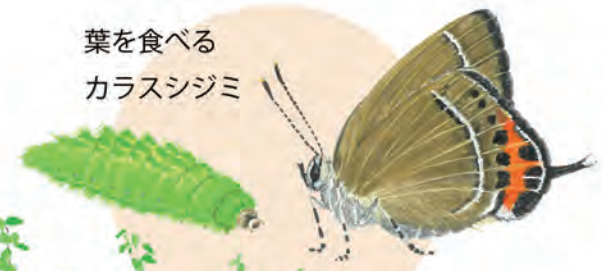


# オヒョウ

ニレ科  
ニレ属  
樹高  
20~25m

葉を食べる  
カラスジジミ



樹皮を食べるエゾシカ

## 四季の観察ポイント

春

4~5月に葉よりも先に花が咲く



風で花粉が運ばれる  
風媒花

夏

6月頃に種子が熟す



葉は大小形状不定で  
葉脚（葉の付け根）  
が左右不揃い

秋

黄葉する



倒木や切り株に発生する  
タモギタケ

冬



冬芽



成長すると灰色の樹皮が  
薄く剥がれる

### リン子の絵日記

オヒョウ

オヒョウの葉は形が多様で一枚として同じものはないと言われているよ。

あれはオヒョウ

おもしろい形の葉っぱだね!

アイヌ民族はオヒョウの樹皮からアットウシという布を作ってきた。

① 木が水を多く吸い上げる春にオヒョウの樹皮を剥ぐ。内皮だけ持ち帰る。

② 木の灰などを入れて皮を煮る。洗って乾かして保存する。

④ 細かく糸状に裂き一本ずつ指で結び縫いをかけて繋ぐ。

③ 湿らせた内皮を薄く剥いでいく。

⑤ 出来上がったカタク（糸玉）を織り手が腰機（後帯機）で織っていく。

アットウシは水に強く通気性に優れた独特な風合いを持つ

この伝統を守るためオヒョウの育成も進められているよ。

オヒョウの葉と同じく一つとして同じものはない。伝統的工芸品だ。

## オヒョウとつながり

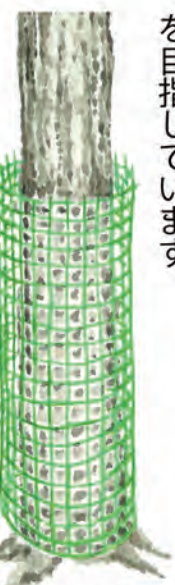
オヒョウの材は重く堅いため、器具材（挽物細工）、家具材、合板材などに用いられます。道内のオヒョウは内装材として、ミズナラ、ハリギリに次いで高く評価され、1950年代にはイギリスなどに大量に輸出されていました。

### アイヌ民族とオヒョウ

アイヌ民族がオヒョウの木の皮から作るアットウシという布の中でも、沙流川流域の「二風谷アットウシ」は平成25年に経済産業省から伝統的工芸品に指定されました。



アットウシで一反（一着分）の着物を作るには、胸高直径20~30cmのオヒョウ一本が必要ですが、過去の伐採や近年のシカによる食害でオヒョウの枯渇が心配されています。そこで道と国は資源の把握と採取区域の設定、育成を進め、オヒョウの安定確保と利用を目指しています。



食害を防ぐためのネット